

女川で輝いている人、団体を紹介しています。

キラキラ・いきいき

島の暮らしを守る

安心の架け橋シーパル女川汽船



安心安全運航に努めます

荒波を読み、安全を届けるプロ集団

昨年、出島に「出島大橋」が開通し、女川の交通は大きな節目を迎えました。現在、町内で唯一の有人離島となった「江島(えのしま)」と本土をつなぐ唯一の定期航路を守っているのが、シーパル女川汽船です。島民約40人の大切な「足」として現在「しまなぎ」が1日3便運航しています。

現場を支えるのは、甲板員4名機関員4名の計8名体制。交代制で日々の安全運航を徹底しています。

「最も神経を使うのは天候の判断です」と語る船長の佐藤さん。女川港内は穏やかでも、一歩外洋(原発付近から先)へ出れば波の高さも性質も一変します。

常に先を予測し、揺れる船上でも乗客が安心して過ごせるよう、細心の注意を払う姿はまさにプロの仕事です。

令和8年度、待望の新船就航へ

現在、令和8年度内の就航に向けて新船「しまあかり」の準備が進んでいます。

・高い走破性・サイズは現行よりわずかにコンパクトになりますが、外洋での安定感は抜群。

・最新設備・離着岸をスムーズにする「パウラスター」や、潮位の差をカバーする大型リフトを完備。高齢の方の乗降や荷揚げがよりスムーズになります。

・環境への配慮・燃費効率の良い近代的なエンジンを搭載し、管理コストの削減と環境負荷の低減を両立します。



新船「しまあかり」まもなく就航

受け継がれる100年の絆



なつかしいな、レスポワール

江島航路の「100年前」に遡ると、大正から昭和初期にかけて、すでに島民の生活物資や交通を支える「通い船」の文化が定着していました。

戦後、昭和20年代後半には組織的な「江島汽船」としての体制が整い、長らく「江島汽船」と「丸中金華山汽船」がそれぞれ

の島(江島・出島)への航路を担ってきましたが、経営合理化と航路維持のため、平成17年に町と島民が出資する第3セクター「シーパル女川汽船」が誕生。これにより100年続く「島の足」が公的に守られる形となりました。

つながるバトン

大正時代から続く伝統芸能が息づく江島。その暮らしを支える航路もまた、100年以上にわたる形を変えながら、島民の命をつないできました。かつての個人運航から現在のシーパル女川汽船へと、そのバトンは今、新船「しまあかり」へと引き継がれようとしています。



- | | |
|-------|-------|
| 委員長 | 宮元 潔 |
| 副委員長 | 隅田 翔 |
| 委員 | 宮坂 千尋 |
| 委員 | 鈴木 良徳 |
| 委員 | 阿部 薫 |
| 委員 | 阿部 薫 |
| 発行責任者 | 阿部 律子 |
| 議長 | 佐藤 良一 |